

石クリ通信

3月号

春なのに...

看護師

高山 早苗

地元では梅まつりも始まり、少しずつ春の訪れが感じられる今日この頃、この度3月に退職する事となりました。開院以来8年間、石川先生、事務長、石川家の皆様そして何より同僚の皆様に大変お世話になりました。仕事だけではなく学会や勉強会、リレーマラソンなどの行事へも一緒に参加し、楽しい思い出とともに多くのことを学びました。水戸から通う私にとって楽しくもあり、苦しい日々もありましたが、仲間のみんなに励まされ、支えられ頑張ることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また日常での患者様との会話も楽しい思い出です。看護師になって三十数年、長い看護師人生の中でこの8年間は一生忘れることのできないかけがえのない日々となりました。皆様本当にありがとうございました。

初マラソン

事務

田所 弓佳

趣味のランニングが高じて初めてのマラソンに挑戦しました!!今回は10キロの部に参加しました。最初の3〜4キロまでは練習している時と同じペースで走ることができましたが5キロをすぎた途端足が重くなりかなりのペースダウンをしてしまいました。ですが10キロ走っている間はずっと友達とお話する余裕があり、励まし合いながら走ることができたので辛さが半減した気がします(笑)。タイムはまだまだ遅いですがまた4月に10キロの部のマラソンに挑戦するので、今回よりも速いタイムで走ることを目標に頑張りたいと思います。

今年も祖父母会へ

看護助手

柴田 さち子

孫の保育園の祖父母会がありました。5歳の女の子の孫と一緒に楽しくゲーム、こま回し、カルタ、福笑いをして遊びました。お昼は給食を頂き、メニューはささみのフライ、マカロニサラダ、みそ汁、みかん、とてもおいしかったです。ごちそうさまでした。帰りには、孫が作ったランチョンマットと、年長さんが作った写真入れをおみやげに頂きました。ありがとうございました。一日楽しく遊びました。



新スタッフ紹介

事務長

石川 都

この春に定年退職する看護師の高山早苗さんの後任として、日立病院の泌尿器科病棟に長くおられた太田小百合さんが来て下さることになりました。

太田さんは、私達が日立に来て院長が日病に入ったまさに同じ年に日病に勤め始め、その後も泌尿器科のD棟七階を中心に勤務なさっていた大ベテランの看護師さんです。お住まいは小水津町なので少し遠いのですが、泌尿器科の処置などの経験も豊富で、院長はじめこれまでの泌尿器科の諸先生方もご存知の、最強の新スタッフです。皆さんの中でも、日病で太田さんにお世話になっていた方もおられることでしょう。太田さんは引継ぎも兼ねて二月下旬から勤務しており、三月からはいよいよ澤田・太田体制になります。今回退職の高山さんも開院時からのスタッフで、水戸からの遠距離通勤にもかかわらず皆勤、本当にお世話になりました。(どうぞお元気で...)

今後も石川クリニックは少人数の精鋭体制で「人に優しい医療」を心がけ、いつでも皆様のご意見やアドバースをお待ちしています。どうぞよろしく願います。

地域によって気質の違いがある？

院長

石川 悟

水戸っぼ、江戸っ子など県によって人間の性格や気質が違う、などと言われますが、日立市内に限っても、地域によつて違いがあるのかもしれない、と最近思うようになりました。開業してもうすぐ丸8年になります。日々接する患者さんのカルテには当然住所が記載してあります。この人は遠くから時間をかけて来てくれていて、とか〇〇さんの近くに住んでいる人だな、とか病気と関係ないことも考えながら診療をしています。病気が同じで、同じ薬を処方していても人によっていろいろなので、毎日の診療も単調ではありません。

A団地の人はちよつと理屈っぽくて、斜に構えた考えをする人が多く、その代わりこちらの説明の理解が早い。B団地の人は、細かいことは言わず、診療時間も短くて済むが、薬をちゃんと飲まなかったり、症状が悪くなつても放置している人が多い。C団地の人はきちんとして服薬して、予約時間も守る。D団地の人は個性的な人が多いが、千差万別。E地区の人は農業に従事している高齢者が多く、独立心が旺盛で、自分の治療方針を自分で決めるような人が多い。など、これらの判断は私の独断と偏見ですが、一定の傾向がある気がして興味深く感じています。団地が開発された年代の違い、住んでいる人の経済状況、もともとの出身地、教育環境の違いが影響しているのかもしれない。また昔からの集落では、その地域に伝統的な考え方がずつと支配的であることも推定されます。皆様の考えはいかがでしょう。

いざ山寺へ

事務

上野 亜希

先日、松尾芭蕉の句でも知られる山形県の山寺に行ってきました。雪が降って二日程度経っていたので、アイスパーンになつていて所が多々ありました。頂上の奥の院に行くには観覧料を払い千余段の階段を登らなくてはなりません。往復一・五時間を要する道のりに臨むべく支払いを済ませいざ階段を登り始めましたが、何せ足元が悪く階段一段一段が凍っておりなかなか先に進めず、あちこちで転倒する人が続出してしまいました。まわりの景色など楽しむ余裕もなく必死に上を目指しましたが、頂上どころか、まだ四分の一程しか登っていない所で体力の限界を感じ、ましてや手すりのある方の階段が氷の滑り台状態で、帰りの恐怖心と体力を考えたなら、ここで引き返さないと大変な事になると思い、今回はそこで降りて来ました。帰りは手すりにしがみついたら後ろ向きに降りて来ました。この悔しさを胸に、今度は足場の良い夏か紅葉の時にリベンジしたいと思っています。

小さな幸せ

看護師

澤田 彰子

休日でもいつもより遅く起きた朝、夢をみました。真つ青な海にぼつかりと浮かんだ小さな島に家族の他には誰もいなくて、素潜りで潜つて魚と泳いだり、船に乗つて魚釣りをしている夢でした。普段夢をみていないのか、目が覚めた時には覚えていない事が多い私ですが、その日ははっきりと覚えていました。目覚めから嬉しい気分になれた朝でした。

薪ストーブ

通信・ウェブ担当

石川 香

先日の茨城新聞の一面に載っていたのですが、茨城県は、河川内樹木の伐採で出た不要な木を費用をかけて処分していたところを、無償で配布をする取り組みを始めたそうです。近年家庭で薪ストーブが普及したことで、今年試験的に初めてみるとなんと応募が殺到！残念ながらもう締め切られましたが、これはなんともしないニユースです。現在新居を建築中ですが、流行りのつた訳ではなく、郷に入つてもこだわりの強いイギリス人の主人のリクエストで、薪ストーブを設置しました。石川クリニックをはじめ、現在は随分床暖房が普及し、足元ポカポカで過ごせますが、主人は逆に足がもわいとして不快だとのこと。自分で火の加減を見ながら薪を入れ、その火を眺めるのが良いとのこと。以前はクリスマスにテレビの画面で炎の画像を流してたほど。イギリスの首都ロンドンでは、暖炉から出る煙の公害で、現在は暖炉の使用が禁止されているのですが、やはり育った地での風習からは逃れられないものなのではないでしょうか。さて、薪集めと薪割りをしなくては。